

一般社団法人 牛久青年会議所

第1期 長期ビジョン

SINCE 2018

作成 2017年度 一般社団法人 牛久青年会議所

I 長期ビジョンの策定の背景

1 これまでの沿革

○青年会議所運動の目的

青年会議所は地域社会、経済及び文化の振興を図る為に各種の社会経済文化事業を行うと共に、会員の資質の向上と相互の連携に努めるほか、国内外の関係諸団体との協力を促進し、もって地域社会及び日本の発展並びに世界の繁栄と平和に寄与することを目的に運動を展開しています。それは、綱領にもあるとおり「明るい豊かな社会を築き上げる」ことです。この目的を達成するため、32年に渡り連綿と運動を展開してきました。また、「明るい豊かな地域づくりを行う人間を育てる」ことは、もう一つの大きな目的であり「まちづくり」「ひとづくり」の両面をバランスよく展開することが我々青年会議所の目的と捉えています。

○これまでの牛久 JC の歩み

1986年、初代理事長大野喜男先輩を初めと致します先輩諸兄の皆様は、「次代を担う責任を持った青年経済人の育成」が地域の飛躍的發展に繋がることを確信し、その弛まないご尽力によって牛久青年会議所を創立されました。そして、1991年には法人格の取得、2013年には一般社団法人へ移行を経た牛久青年会議所は、創立からの理念である「明るい豊かな社会」の実現という使命を貫き、その時代ごとに地域と真剣に向き合い、地域發展の原動力にならんとして32年に渡り襷を継いで参りました。

牛久青年会議所は、わんぱく相撲牛久場所やうしくみらいエコフェスタといった事業を主催すると同時に、うしくかっぱ祭り等の行政や他団体が行う事業にも積極的に参画し、地域に根付き市民に認知される団体へととなりました。

○牛久を取り巻く環境の変化と今後の展望

「これまでの経済的な発展と同調した物理的な豊かさを求める社会から、心の豊かさや生活の質の向上を求める社会への変化や、情報化、グローバル化の進展などにより、人々のライフスタイルや価値観が多様化しています。また、少子高齢化の進行と人口減少社会への転換による地域の経済縮小と人口減少の悪循環の形成が懸念されるなど、わたしたちの地域を取り巻く環境が大きく変化しています。こうした変化がみられる中においても、本市は一度も人口減少を経験していません。牛久駅、ひたち野うしく駅の周辺地域などで宅地が造成され、東京圏、あるいは近隣市町村のベッドタウンとして選ばれ続けることによって、現在も転入超過が継続しています。しかし、早い時期に開発された地区では少子高齢化がすすみ、空家の増加、店舗の撤退などによる空洞化もすすんでおり、まちの活気が失われつつあります。また、東部の農村地域においても人口減少がすすみ、農業後継者の不足や小中学校の児童生徒の少人数化などが課題となっています。そのため、ひたち野地区の人口増加に支えられている現状から転換し、市内全域に人が流入し、世代が循環する持続可能なまちづくりが求められています。」

出典：牛久市（平成29年3月）「牛久市第3次総合計画・後期基本計画」

2 長期ビジョン策定の経緯

私たち牛久青年会議所は2015年に創立30周年を迎えました。その節目の中で過去の事業や運動展開を検証し、先輩諸兄の想いや精神を引き継ぐことが出来ました。しかし、検証を行った上で新たな目標を立てることまでに至らず現在まで活動して参りました。会員が生き生きと活動するために、また、安定した運動・活動を実現するために、今後の指標となるべき指針の策定が求められています。会員が思い描くビジョンや展開方法・活動案を協議し、求めるもの・求められているものを明確にすることで、明るい豊かな社会の実現に向け、今後も活力ある運動展開をしなければなりません。今回長期ビジョン策定にあたっては、創立30周年での検証を基に、会員一人ひとりの意見を集約する場としてワークショップを開催しました。そして、会員同士膝を交え議論を行いながら、それらの結果を総合することにより、長期ビジョンを策定しました。

Ⅱ 長期ビジョンの意義

1 長期ビジョンの必要性

私たち牛久青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現という基本理念だけを共有し運動展開を続けてきました。また単年度制というシステムを採用することで組織がいつまでも新鮮であり続け、メンバー一人ひとりが多様な経験をするチャンスを得ることが出来ています。しかし、それゆえに年度によって「明るい豊かな社会」の捉え方が異なり運動展開のバラつきが起き、運動の終着点が異なってしまう等の問題が起きています。また、継続事業に関しても、当該年度理事長だけではどうすることも出来ず、ただ、継続するために事業を行うといったことが起きかねない状態です。まず、第1に長期ビジョンを策定することで、メンバー一人ひとりが、地域・組織・個人の現状と向き合い、その未来像を描くことが必要です。また、長期ビジョンは単年度制を邪魔するものであってはなりません。2025年までに達成すべき「明るい豊かな社会」を具体化し組織として進むべき方向を明確にすることで不連続の中でも連続性が生まれ、より目標に近づくことが出来、また、私たちの理解者を増やすことにも繋がります。

2 長期ビジョンの期間

このビジョンは、2025年（創立40周年）を目標年に定め2018年から8年後までにどのような地域・組織・個人に成長すべきかを記したものであり、2020年（創立35周年）には見直しを行い、その他必要があれば、随時見直しを行い修正出来るものとします。

Ⅲ 基本ビジョン

① 【地域】

地域の未来に当事者意識と参画意識を持ち郷土愛溢れる市民が集うまちの実現
世代間を超えたコミュニティの確立と市内全域の発展

② 【組織】

時代の変化と共に地域に必要とされ影響力を持つ組織の実現
組織が一体となり市民に認知され賛同される組織の実現

③ 【ひと】

地域のリーダーとして社会的経済的に他の手本となれる人材の育成
高い志と JAYCEE としてのプライドを持ち自らの意思で行動できる人材の育成

IV 基本ビジョン実現に向けた展開方法とアクションプラン

①

市民・行政・諸団体との連携による発信力と影響力の強化
市民参画型事業の開催による意識改革
地域ブランドの確立による郷土愛の向上と牛久の魅力発信
異世代が交流をとれる場の提供と地域コミュニティの確立
地域を細分化した際の問題点の共有による解決策の提案

②

先人の想いの継承と今の時代に見合う組織・継続事業の見直し
年度初期人数50名の確保と多くの20歳代メンバーの獲得
関係他団体との連携と組織力を高めるための出向者輩出
地域に共感を生み賛助会員を獲得
市民に認知されるための組織・事業の発信力の強化
入会セミナーの開催

③

様々な研修事業への参加とスキルアップのための事業の開催
自己成長を目的とした毎年15%以上の出向者輩出
青年会議所の理念と目的を理解するための事業の開催

IV 長期ビジョンの実現に向けて

今、私たちの価値が試されています。私たちは、この牛久で「明るい豊かな社会」を実現するために運動を展開していますが、ときにその活動が自己満足に陥っている時はないでしょうか。このまちの問題の根源としっかりと向き合い、市民が何を思い、何を必要としているのか。地域からの期待を受け止め活動内容を見直していかなくてはなりません。「明るい豊かな社会」とは何なのか。今、私たちが考える「明るい豊かな社会」をこの長期ビジョン策定の過程で明確にしました。この後の運動展開に長期的なビジョンを持ちそれを共有していくことで、単年度制という組織の体質を上手く活かしながら、不連続の中にも連続制を持って活動して参ります。

「誰かがやってくれるだろう」と考えるのではなく、「自分が何とかしよう」とする行動力を JAYCEE 一人ひとりが持ち、私たちが愛する牛久を明るく豊かな社会にするためには、まず私たち自身の意識改革が必要です。そして、その力を地域に伝播させることでこのまちが発展していくはずです。

私たちは、青年経済人としてこの愛する牛久に住まう者であり、志を同じくした JAYCEE です。市民や行政また関係諸団体と共にこのビジョンを共有し、地域で必要とされる私たちがまちづくりの新しい視点を生み出し、価値を磨くことで、この牛久に輝かしい未来を創造します。

2017年度 一般社団法人 牛久青年会議所一同